

## 名古屋城天守閣木造復元に関する10の質問

### 名古屋城天守閣木造復元事業

- 事業者：株式会社竹中工務店名古屋支店 ■総事業費：505億円
- 竣工時期：2022年12月～（ただし、石垣の整備については木造復元竣工後行い、2031年11月まで）

Q1 「特別史跡名古屋城跡」。  
特別史跡ってなんですか？  
名古屋城には一体どんな価値があるのですか？

- ・特別史跡とは、国が文化財保護法で指定した城跡などの史跡のうち、歴史的、学術的価値が特に高いと認められたものです。美術工芸品、建造物で言うところの国宝に相当します。
- ・それでは、「特別史跡名古屋城跡」の価値とは一体どのようなものなのでしょうか。
- ・名古屋城は、近世城郭築城技術の完成期に、諸大名を動員した天下普請によって築城されました。
- ・その後、管理者が変わる中でも各時代に応じた保存がなされてきたことにより、築城から400年以上を経た今でも、現存する遺構や豊富な史資料から、江戸時代の姿や改修・改変の歴史を知ることができます。
- ・また、名古屋城とその城下町は、徳川家康の意向を反映した都市計画のもとに築かれており、現代の名古屋の都市形成のはじまりとなつたとされています。
- ・このように、名古屋城は、積み重なった歴史を、そして近世城郭の往時の姿を現代に伝える、とても貴重な城跡なのです。
- ・そこに「特別史跡名古屋城跡」の本質的な価値があると考えています。

Q2 なぜ天守閣を木造で復元しようとしているのですか？

- ・「特別史跡名古屋城跡」の本質的な価値を、もっと皆様に知っていただきたいとの思いから、整備方針を木造復元とし、検討を進めています。
- ・現在の天守閣は、外観はほぼ史実に忠実に復元されていますが、一歩足

を踏み入れると、近代的な造りになっています。

- しかし、内部空間を含め木造により復元することで、今まで写真などでしか知ることができなかった江戸時代の天守の空間を「実感」することが可能となります。石落としなど、今の天守閣にはない、防衛機能を備えた天守の建築的な特徴を実際に見たり、柱や梁などの木の質感を感じてみたり。歴史的空間を実際に体感することで、江戸時代の天守の本来の役割を、更に理解することにつながるのではないかと考えています。
- また、現在、名古屋城の本丸と呼ばれるエリアでは、天守と同じく戦災で焼失してしまった本丸御殿の木造復元を行っています。
- 現在復元中の本丸御殿と共に、天守閣も木造復元することで、「江戸時代の本丸」を体感することができる歴史的、文化的空間を再生し、「特別史跡名古屋城跡」の本質的な価値を、より実感が伴う形で皆様にお伝えしていくこと。そのため、現代に残された『金城温古録』や「昭和実測図」、「ガラス乾板写真」など、復元に耐えうる様々な根拠資料を基に、木造復元を進めています。

Q 3 今の天守閣は、戦災復興の象徴として再建されたと聞きました。多くの市民の思いが詰まっていると思いますが、どのように考えていますか？

- 現在の天守閣は市民の思いが詰まった、貴重な建物だと考えております。
- 天守閣が再建されたのは昭和34年（1959年）。戦後、生活の根幹に関わる問題が数多く残る中、市民の声に後押しされ、多くの寄附という支えの上に実現しました。
- 「二度と燃えたり、壊れたりしないように」という、市民の願いが込められた戦災復興の象徴であり、昭和30年代の建築技術や記憶を現代に伝えています。
- また、再建後の天守閣では、重要文化財等の収蔵や展示が行われており、博物館としても市民の皆様に親しまれてきました。
- 天守閣の木造復元にあたって、このような天守閣の歴史と価値をしつかりと後世に伝えていくため、現在の天守閣を写真や映像などにより記録することはもちろん、昭和の再建の記憶を皆様の心にとどめていただけるよう、積極的に展示等を行ってまいります。
- また、金鯱や、現在の天守閣に使われている瓦などの部材の一部は、展示やモニュメントなどへの活用を検討しています。

Q 4 地震などの災害が起こったとき、天守閣が木造でも安全なのでしょうか？

- ・史実に忠実な木造復元を行うと共に、ご来場の皆様に安心してご観覧いただけるよう、安全性を確保してまいります。
- ・耐震性については、補強等により、現行の耐震基準と同等以上の耐震性を確保します。また、火災の発生を極力抑制するため、更に、万が一火災が発生した場合でも安全に避難していただくため、防火設備、避難経路の検討を重ねております。

Q 5 木造のお城である姫路城や松本城にはエレベーターがありません。天守閣を木造にした時のバリアフリー対策はどうなっていますか？

- ・名古屋市では、史実に忠実な天守閣木造復元を目指しております。
- ・しかし、年齢や障がいの有無などに関わらず、全ての皆様に名古屋城天守閣を楽しんでいただきたいと考えております。
- ・障がい者団体や高齢者団体等、様々な方々のご意見をお伺いしながら、バリアフリーについての方針を決定してまいります。
- ・現在、手すりやスロープなどの設置や、その他昇降を円滑にする手段、介助スタッフの配置など、ハード、ソフトの両面からの対応を検討しております。

Q 6 今の天守閣で展示されている重要文化財、刀や甲冑(かっちゅう)などは、木造復元された天守閣の中でも見られるのですか？

- ・天守閣を木造復元した場合は、現在の天守閣内で行われているような展示をお楽しみいただくことはできなくなります。
- ・現在の天守閣で展示・収蔵している重要文化財の旧本丸御殿障壁画やガラス乾板写真などは、西之丸に建設予定の重要文化財等展示収蔵施設にてご覧いただけます。
- ・その他の展示・収蔵物は、名古屋城の近接地に新たな施設の建設などを検討し、対応します。

Q 7 新聞やテレビなどで、石垣がとても大切だと報道されていました。名古屋城の石垣はきちんと守られていくのですか？

- ・石垣は、幾度かの積み直しを経ながらも、江戸時代の姿を現代に伝え続けている、とても貴重な遺構です。
- ・名古屋市では、その大切な石垣を適切に保全していくため、現在、調査を行っております。
- ・天守台石垣については、基本的な図面を作成するための測量調査や、積み直しの変遷などを探る史実調査、安定性を確認するための地盤調査など、石垣の現在の状態を把握するための調査を進めています。
- ・今後、調査結果をもとに、適切な保全のための方針を決定し、対策を実施してまいります。
- ・また、現天守閣の解体工事や、木造復元工事を行うにあたっては、石垣に悪影響を与えない工法を検討し、対策を実施します。

Q 8 今の天守閣を取り壊すとなると、いつまで天守閣に入場できるのですか？また、いつまで今の天守閣を見ることができのでしょうか？

- ・天守閣木造復元事業に伴う調査や工事のため、2018年5月7日(月)から入場禁止(閉館)となります。調査等に遅れが生じた場合も、入場禁止の時期は変更しない予定です。
- ・また、天守閣への入場が禁止された後も、しばらくの間は外観を楽しんでいただけますが、工事の進捗に伴い見るができなくなります。
- ・現在の工程では、2019年9月から天守閣本体の取り壊し開始の予定です。それに先駆けて2019年6月頃より、工事に伴う囲いを天守閣まわりに建て始めるため、徐々にその姿が隠されていってしまいます。(ただし、工事や調査の進捗状況により、実施時期は変更となる可能性があります。)
- ・なお、天守閣の入場禁止期間も、天守閣を除く名古屋城は通常どおり開園致します。
- ・本年6月に完成公開を迎える本丸御殿や、二之丸庭園、金シャチ横丁。そのほか、四季折々、多彩なイベントを開催。天守閣だけではない、魅力あふれる名古屋城を引き続きお楽しみください。

Q 9 木造復元には、505億円かかるとのことですが、本当に税金を使わないのですか？

- ・現在の名古屋市の試算では、木造復元のために要する費用については、天守閣を木造で復元することによる入場者数の増加と入場料金の変更を行うことにより、入場料収入で賄うことを考えております。
- ・名古屋市では入場者数を確保するために、子どもから高齢者に至るまで、また国外からの観光客まで誰しものが楽しめるよう、それぞれに対応したパンフレットの作成や多言語対応の音声ガイド、案内スタッフの配置などを実施するとともに、年間を通じて様々なイベントを企画してまいります。
- ・また、木造復元をした天守閣においては実物展示を行うことは難しいことから、従来のパネルや配付物に加え、AR技術の導入など、様々な手法の検討を行います。
- ・入場料以外の収入としては、2017年7月21日より天守閣木造復元のための寄附として「金シャチ募金」を立ち上げ寄附の募集をしております。今後、天守閣木造復元の趣旨をご理解いただき、多くの方からご寄附のご協力をいただけるよう、機運の醸成に努めてまいります。

Q 10 「天守閣木造復元事業」では、今、何を行っているのですか？

- ・2017年5月、株式会社竹中工務店名古屋支店と、天守閣木造復元に関する基本協定や基本設計等の契約を締結いたしました。
- ・基本設計では、天守閣を復元する年代の考え方や、構造計画、使用する木材の樹種や数量、バリアフリーなどについて検討しています。
- ・また、石垣の状態を把握し、適切に保全するため、天守台石垣の史実調査や測量調査、石垣周辺の発掘調査、地盤調査などを進めています。
- ・今後、有識者のご意見や文化庁との調整を踏まえた上で検討を行い、市民の皆様のご理解を得ながら、2022年12月の天守閣竣工を目指してまいります。